

寒川町地域自立支援協議会 相談支援アンケート 集計まとめ

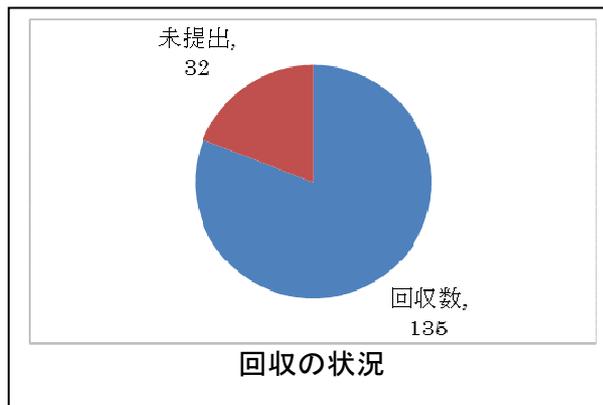
寒川町地域自立支援協議会では、地域の中での連携の強化につなげることを目的として、日頃から地域に様々な相談が寄せられているなかで、印象に残った相談事例や対応に苦慮した相談事例等についてアンケートを行い、改めて地域の課題の洗い出しを行いました。

アンケートにつきましては、平成28年8月から平成28年9月の期間で実施し、町内の自治会、民生委員児童委員、病院相談室、小中学校、幼稚園、保育園、保健師、子育て支援員多くの方にご回答いただいた内容と、ご回答を受けて今後取り組むべき課題を整理した資料となります。

【1】アンケートの集計結果

★アンケートの回収状況

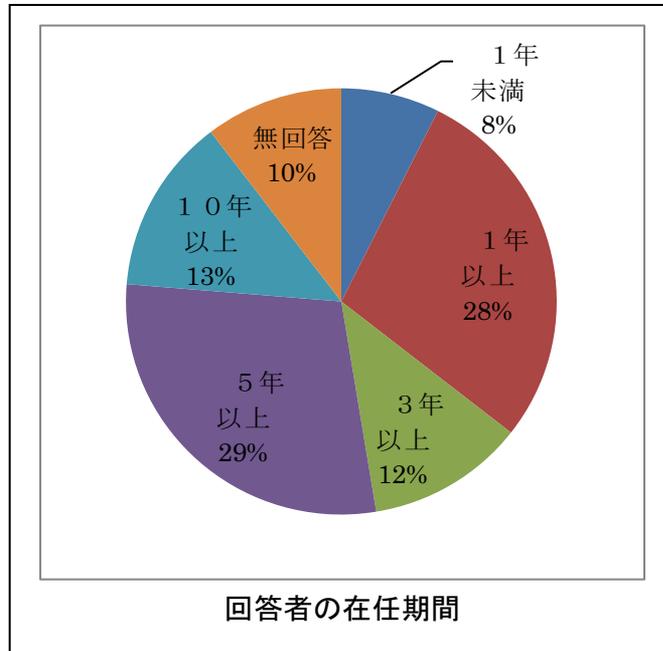
配布数	回収状況	構成比
回収数	135	80.8%
未提出	32	19.2%
配布数	167	100.0%



アンケートは、総数167枚配布させていただき、135枚のご回答をいただきました。回収率は約81%で比較的高い回収率となっています。

I. 在任期間について

期間	回答数	構成比
1年未満	10	7.4%
1年以上	38	28.1%
3年以上	16	11.9%
5年以上	39	28.9%
10年以上	18	13.3%
無回答	14	10.4%
回答計	135	100.0%

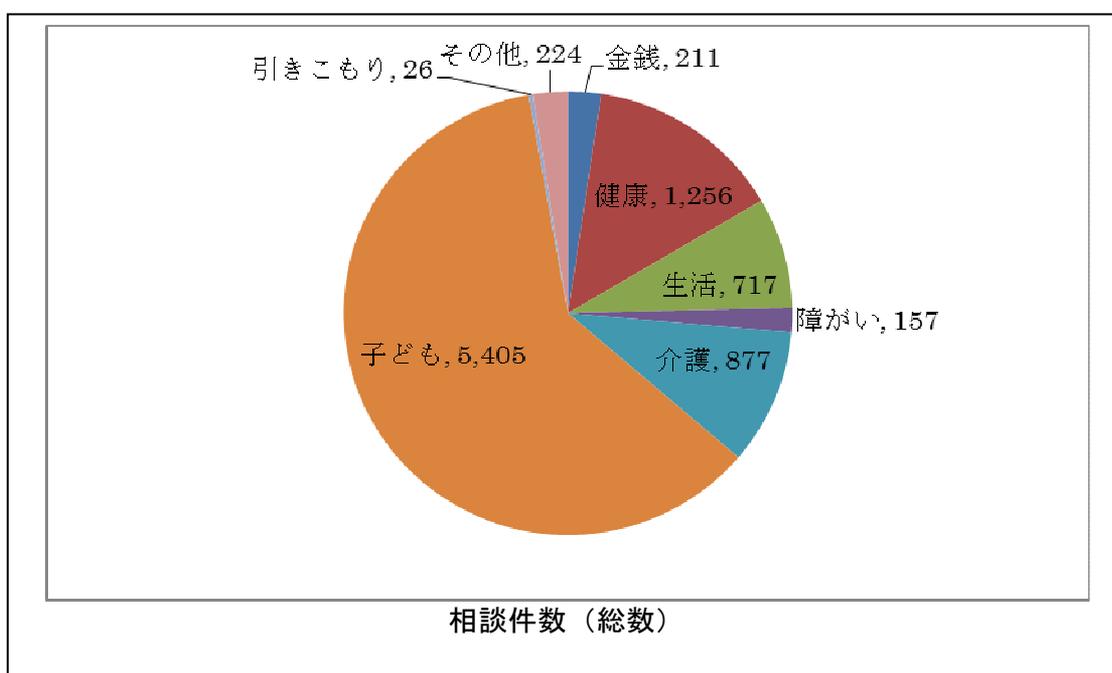


1年以上3年未満の方が28.1%、5年以上の方が28.9%、10年以上の方が10.4%となり、回答いただいた4割以上の方が5年以上の長い在任期間を担当されている方でした。

II. 相談件数

主な訴え（主訴）の件数について伺いました。最近1年間に受けた相談の件数と内容です。内容については、1件の相談に複数の相談内容が含まれている場合は、複数に数えていただく方法でご回答いただきました。

	本人		家族		友人		近所		その他		総数	
	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比	回答数	構成比
金銭	133	4.8%	68	1.1%	4	20.0%	2	7.7%	4	10.5%	211	2.4%
健康	1,164	42.3%	87	1.4%	2	10.0%	1	3.8%	2	5.3%	1,256	14.2%
生活	500	18.2%	204	3.4%	0	0.0%	4	15.4%	9	23.7%	717	8.1%
障がい	58	2.1%	88	1.5%	0	0.0%	7	26.9%	4	10.5%	157	1.8%
介護	371	13.5%	494	8.2%	7	35.0%	0	0.0%	5	13.2%	877	9.9%
子ども	315	11.4%	5,067	83.9%	5	25.0%	10	38.5%	8	21.1%	5,405	60.9%
引きこもり	4	0.1%	21	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.6%	26	0.3%
その他	207	7.5%	8	0.1%	2	10.0%	2	7.7%	5	13.2%	224	2.5%
合計	2,752	100.0%	6,037	100.0%	20	100.0%	26	100.0%	38	100.0%	8,873	100.0%



相談をした人の分類を大きく、本人、家族、友人、近所、その他で伺いました。その結果、友人、近所、その他の相談は少なく、本人、家族からの相談が非常に多く相談件数の99%という結果となりました。

本人からの相談については、全体で、2,752件の相談があり、そのうち特に多かった相談が健康に関する相談で、1,164件、全体の42.3%を占めています。その他には生活に関する相談が500件、介護に関する相談が371件、子どもに関する相談が315件と高い割合を占めています。

家族からの相談は、アンケートの依頼先が学校、幼稚園等子どもに関係する機関が多かったことの影響もあり、子どもに関する相談が全体の6,037件中5,067件と非常に多い結果となりました。お子さんの相談に関する内容はこの質問の選択肢にないため、具体的な相談内容については「解決に困った相談内容」からの類推が必要です。

III. 解決に困った相談

解決に困った相談の内容について伺いました。

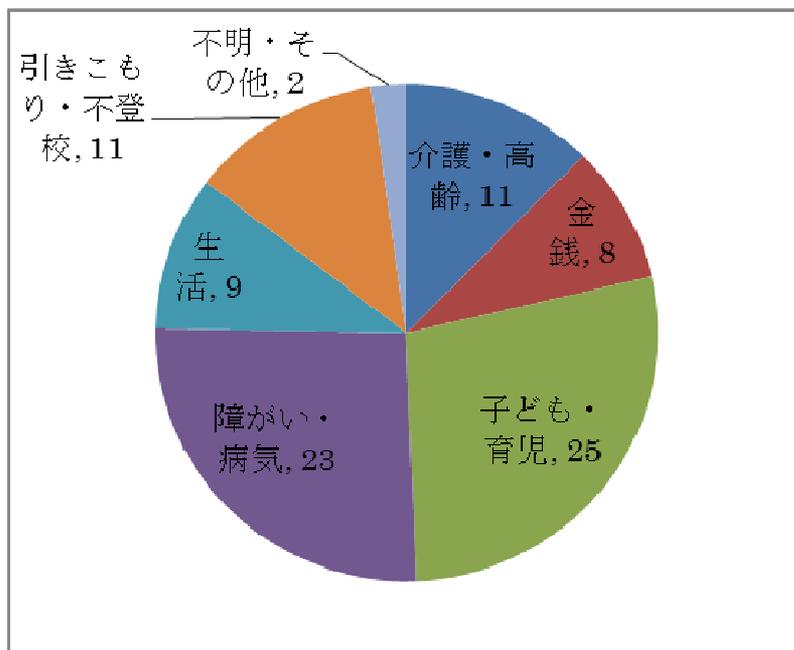
(1) 解決に困った相談の概要

これまで受けた相談の中で、解決に困った相談について、その内容をお伺いしました。

いただいた回答について、①主な内容（相談者が困っている内容・主訴）について、また②相談を受けて対応した内容をおおまかに分類してみたところ、下記の状況が確認できました。

①解決に困った相談の主な内容（相談者が困っている内容・主訴）

分類	件数	構成比
介護・高齢	11	12.4%
金 銭	8	9.0%
子ども・育児	25	28.1%
障がい・病気	23	25.8%
生 活	9	10.1%
引きこもり・不登校	11	12.4%
不明・その他	2	2.2%



解決に困った相談の主な内容

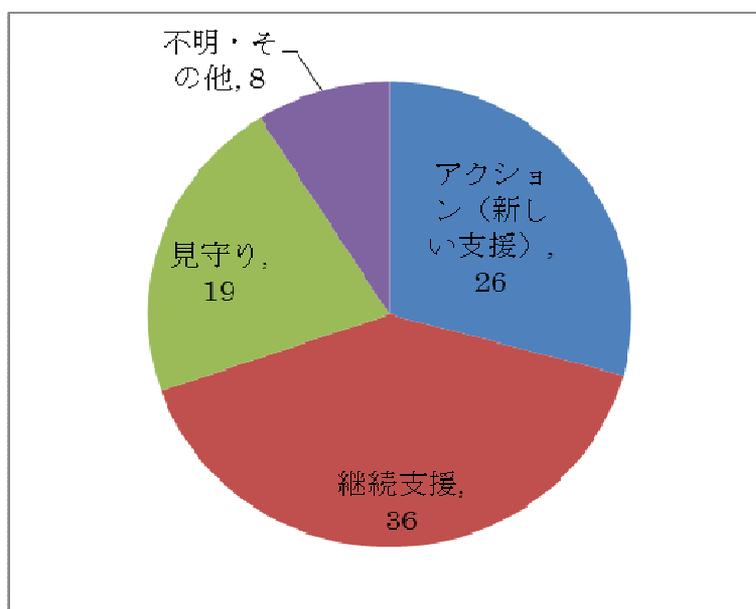
②相談を受けて対応した内容

相談を受けた後、各機関がどのように対応しているか、を分類しました。分類は

- i) アクション（新しい支援）：相談に応じて新たな支援を提供したもの
- ii) 継続支援：相談以前から取り組んでいる支援の継続
- iii) 見守り：積極的な介入が困難なもの、見守りを続けたもの
- iv) 不明・その他

としました。解決に困った相談について伺いましたが、ご回答の内容は各機関とも相談に対応して新たな支援または継続的な支援を提供されているものが約70%と高い比率となっています。

対応した内容	件数	構成比
アクション(新しい支援)	26	29.2%
継続支援	36	40.4%
見守り	19	21.3%
不明・その他	8	9.0%



相談を受けて対応した内容

(2) 解決に困った相談の具体的な内容

回答をいただいた相談の内容です。対応した内容について、**ア**：アクション、**継**：継続支援、**見**：見守り、

不：不明・その他として記載しています。

(個人情報等が含まれる場合など、一部内容を編集しています。)

分類	相談内容	対応した内容	
介護・高齢 -1	近所の方数人よりゴミ出しや救急車を呼んで欲しい等他人に頼りすぎる面が多い。	ア	→包括へ相談、ケース会議を行った。
介護・高齢 -2	GH管理者より独居入所者の息子と連絡が取れない。本人の認知が進んでおり成年後見を考えたい。	ア	→地域包括支援センターを紹介し、息子と連絡をこころみ経過観察中。
介護・高齢 -3	ケアハウス職員が決められたことをしない(胃ろうからの経管栄養にける時間が短すぎる等)。	ア	→県高齢施設課に連絡し介護相談員に情報収集を依頼している。
介護・高齢 -4	近所の方より迷子になり自宅に戻れない女性が居る。その時は他の近所の方に付き添ってもらい帰宅できた。自転車で道がわからなくなる事もある。後訪問して確認したところ、息子がいるが勤めていて日中は一人で過ごしている。ヘルパーを利用している。	継	→迷子になる事が続くようならば、包括センターに一度連絡しようかと思っている。
介護・高齢 -5	近所の方より認知症の相談	不	
介護・高齢 -6	入院していた家族の介護が必要と思われるが、妻一人で介護に不安を感じていた。	見	→様子を見ていたところそれほどでもなかった。
介護・高齢 -7	嫁より日中独居で2Fに居るほぼ寝たきりの認知症をヘルパーが来ない日は見守りをして欲しい	見	→見守りを継続。
介護・高齢 -8	隣人より隣の独居老人が酒を飲んで自転車で帰宅して庭で倒れた。	見	→見守りを継続。
介護・高齢 -9	近所の方より1人暮らしの方が認知症(?)、パジャマで夜歩いたり、自転車で転んでいるのを目撃。	見	→様子を見る。
介護・高齢 -10	本人より独居で末期がんで入退院を繰り返し今は毎日ヘルパーさんや訪問介護の人たちが入っている。	見	→見守りを継続。
介護・高齢 -11	家族より認知症で耳も悪く外出すると家に戻れず。最近息子の所へ来たため認知症が進んでしまった。	見	→見守りを継続。
金銭 -1	出産時の経済的不安について相談あり。	ア	→医療機関を紹介し、訪問している。
金銭 -2	本人よりお金がない、お金を貸して欲しいと自宅に来た。	ア	→社協に連絡し相談、社協と連携をとり、見守りを継続。
金銭 -3	年金受給者本人より所持金が百円単位だけと相談を受けた。お金の使い道は説明してくれず、お金の管理はできない人ではないと思われる。	ア	→関係箇所につなぎ見守りを継続。
金銭 -4	受診をするとお金がかかり日々の生活に影響するので受診はしたくない。	継	→健康を害さないために、受診の必要性を説明するしかなかった。
金銭 -5	病院より紹介されたとのことで本人より金銭面での相談。	継	→茅ヶ崎保健福祉事務所へつなげたが、生保該当せず見守り継続。
金銭 -6	近所の人より財産整理をして生活保護を受けているので自治会費は払わない。→私も払いたくないと広がってしまう。	継	

分類	相談内容	対応した内容
金銭 -7	無申告の両親、無保険の状況から制度につなげる	見 →見守り継続
金銭 -8	妻より夫との生活が金銭的にも苦しく夫の行動も我慢していたが、子どもを抱えての生活への不安、自身の仕事への不安で離婚に踏み出せずにいる。子どもを産んでしまった事を後悔する事も。	見 →見守り・状況把握に努めている
子ども・育児 -1	母親より「うちの子障がい持ってますか？」と相談を受けた。	ア →専門医への相談の予約をとり、見守りを継続している。
子ども・育児 -2	近所の小学一年生の子ども、不登校ぎみ。理由は母親の朝送り出す意識が低いこと。	ア →福祉事務所を紹介。
子ども・育児 -3	利用者より子どもにイライラして家で二人でいる事がストレス。	ア →母子との関わりを検討中。
子ども・育児 -4	近所の方より、子どもの泣き声の相談。	ア →健康スポーツ課を紹介。泣き声なくなった。
子ども・育児 -5	母親より子どもが偏食で困っているとの相談があった。	継 →こまめに連絡を取り合っている。
子ども・育児 -6	母より登園時に子どもが泣くとの相談。	継 →温かく受け入れ、安心できるように声かけしている。
子ども・育児 -7	母親より学力が心配で普通級に通えるか相談を受けた。	継 →2学期の様子を見守る。
子ども・育児 -8	本人より子どもについて相談あり。	継 前向きに人生を歩み始めている。(経過観察)
子ども・育児 -9	生徒より保護者から暴力を受けていて困っている。ネグレクトもあるとの相談。	継 児相に相談し見守りを継続している。
子ども・育児 -10	担任より受け持っている園児のこだわりが強く集団生活を他児と一緒にすすめられない。	継 →どんな対処方法があるか知りたい。
子ども・育児 -11	担任より受け持っている園児から言葉が出ない、耳が聞こえていないのか？との相談。	継 →様子を見ている。
子ども・育児 -12	母より自分の子が標準より太っていないか相談あり。	継 →特に太っていないが、その度に話を聞いている。
子ども・育児 -13	保護者より生活の質の維持について相談を受けたので児童相談所を紹介した。	継 →児童の様子を見ながら必要に応じて保護者と連絡をとり見守りを継続している。
子ども・育児 -14	担任より受け持ちの園児に多動、こだわり(こだわりを中断するとかんしゃくを起こす)があるとの相談。	継 →その子に合わせた関わりを考えながら見守っている。
子ども・育児 -15	担任より受け持っている園児の言葉が遅い、多動、こだわりが強くわがままとの相談。	継 →様子を見ながら接している。
子ども・育児 -16	担任より多動の可能性がありそう、集団生活についていけないとの相談。	継 →声をかけながら無理をさせないよう見守っている。

分類	相談内容	対応した内容	
子ども・育児 -17	利用者より親族に対しての不信感・不満。生活のために退職できず復職。	継	→親族との関わりを検討していたが、復職により現在は接点なし。
子ども・育児 -18	近所の同じ年の子が自分の子と遊んでくれない。自分の子が外に出ると家に入ってしまう。	不	→原因がわからない
子ども・育児 -19	母より家庭での咀嚼、食べ方について相談を受けた。	見	→園では問題なくできているので、連絡を取り合い見守っている。
子ども・育児 -20	近所の方より高校でいろいろといじめなど問題がある様子	見	→あまりよくわからないため見守り。
子ども・育児 -21	担当区内の不登校の子ども。母親にアルコール依存症があり子どもを登校させられない。多くの機関が関わっているが改善しない。	見	→見守り
子ども・育児 -22	自分も親から愛情を受けて育ててもらっていないので子育てに不安がある。	見	→色々な面で話を聞き、相談にのり見守っている。
子ども・育児 -23	虫刺されや怪我がないようにしてほしい。		
子ども・育児 -24	発達について。		
子ども・育児 -25	言葉が出にくく自分の思っていることを上手く話せない子がいる。		
障がい・病気 -1	家族の方から本人から暴力を受けているとの相談があった。	ア	→精神科を紹介し、外来通院から入院へとつなげた。
障がい・病気 -2	病院CWより独居の高齢者が入院中急変し、支払いやもし死亡された後どうすればよいか。	ア	→茅ヶ崎保健福祉事務所に相談したところ死亡前に遠縁の方が見つかった。
障がい・病気 -3	産後うつが受け入れられず、受診が勧められなかった。	ア	→けやきの森病院を紹介し解決した。
障がい・病気 -4	近所の方より精神疾患のある方の騒音がきになる	ア	→福祉課・福祉士さんなどに相談しながら（最近は苦情がないが）見守りを継続。
障がい・病気 -5	家族よりアルコール依存症についての相談。	ア	→包括へ相談、見守り。
障がい・病気 -6	DVの相談から始まって様々な問題を抱えていたのでつなぎ先に困った。	ア	→役場障がい福祉課を紹介し見守りを継続。
障がい・病気 -7	保護者よりコミュニケーション力が不足（障がい？）しているとの相談。	ア	→ことばの教室を紹介し、先生と面談しWISCを受け、その結果をもとに家庭と学校で支援中。
障がい・病気 -8	母親がボーダーで子どもの障がい認められず、適切な療育につながらない。	ア	→小学校に情報提供した。
障がい・病気 -9	本人より被虐待者同士の結婚・子育ての困難と自己肯定感持てぬことでの混乱。かかりつけ精神科で十分話せず	継	→自身の確認が必要な時、受容・共感をしながら相談者が整理できるよう電話相談を継続中。（電話相談のみ7年目）

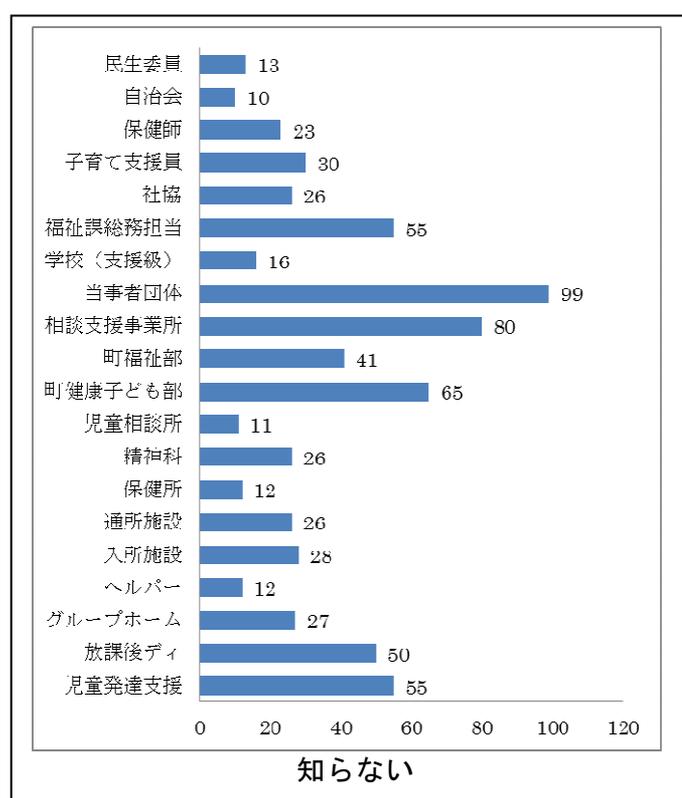
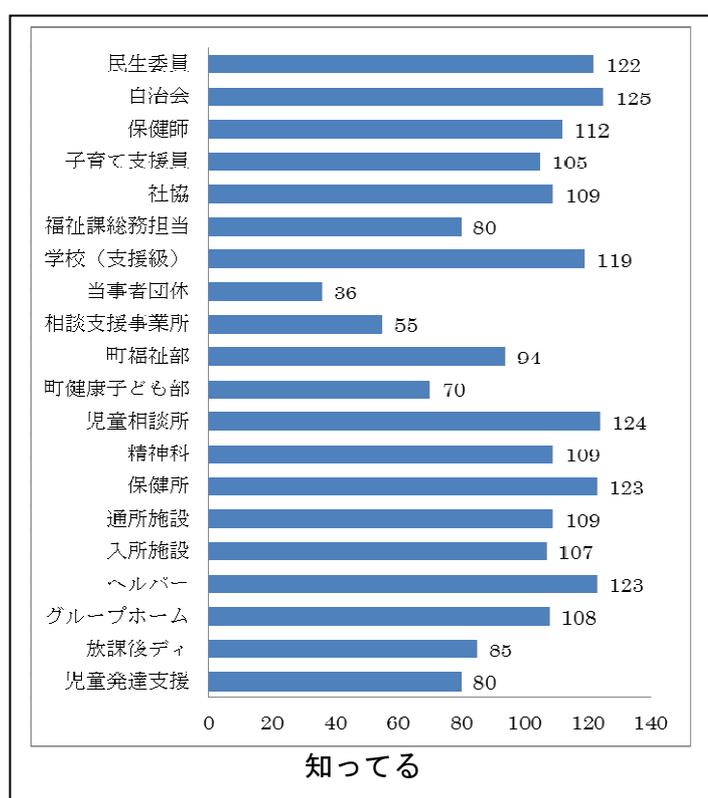
分類	相談内容	対応した内容
障がい・病気 -10	母親より障がい児の通所、通学の相談。	継 →利用中の社協送迎サービス担当に話をしたところ、養護学校、学校教育課と相談しているとのこと。
障がい・病気 -11	利用者より自閉症のため遊び場で他の子に迷惑をかけてしまうのが心配。	継 →遊び場で一緒にやってみようというスタンスで行っており、見守りを継続している。
障がい・病気 -12	生徒より障がいについて相談あり。	継 →医療機関を継続受診している。
障がい・病気 -13	両親より障がい児のサービス事業所が少ない、利用できるサービスも少ないとの相談。	継 →話を聞き、必要時は担当部署にも伝えた。
障がい・病気 -14	母親が知的障がいので適切な育児が支援しても行えない。	継 →保育園にて見守りを継続中。
障がい・病気 -15	障がい児の親より幼稚園の夏休み中の預かり、土日の過ごし方	継 →相談継続
障がい・病気 -16	本人より子どもが生まれてから夫とのコミュニケーション等で？が増大。発達障がいがあるのではないか…夫は困ってないが、生活を共にしている妻（相談者）の困惑大。子育てへの影響も生じている為影響が大きくなるよう対応。	継 →現在も状況を把握し相談者が話せる人・場所として関係性を保っている。子どもは保育園に入園し子の安全と母親のストレス軽減を保てるようにしている。
障がい・病気 -17	母より子どもの生まれつきの障がいの為行動も制限されている中で母の不安いら立ちを受け止めている。	継 →相談継続
障がい・病気 -18	近所の方より身体障がい者の方の相談	継 →見守りをしてなるべく話をする
障がい・病気 -19	病棟看護師より身寄りがいない方が入院後、意識障がいを起こしコミュニケーションがとれなくなった。	不明 町役場に相談したが、町の方もどう対応したらよいかかわからない様子だった。現在は死亡。
障がい・病気 -20	近所の方より精神・発達障がい（の家族の方が）通所施設には時々行っていて、将来グループホームに入所させたいと考えているがなかなか本人に合うホームが近いところが見つからない。	見 →見守りを継続。
障がい・病気 -21	近所の方より知的障がい者の方の相談。近所に後見人。	見 →見守りをし、現状を話す
障がい・病気 -22	発達障がいにより頻りに電話をかけてくる。町障がい福祉担当へ相談。	見 →見守り継続中
障がい・病気 -23	障がいがある子どもの母親より子どもの問題行動について相談。	見 →福祉課などと見守りを継続。
生活 -1	本人（中学生）より母子家庭だが、母親が入退院を繰り返すとの相談。	ア 祖母、児相、保健福祉事務所と連携して対応中。
生活 -2	まかせて会員より家庭内不和（夫婦間・子どものこだわり）について相談を受けている。	ア →関係機関につなぐ
生活 -3	近所の方より家族（次男）が父親が亡くなった頃から家庭内において暴力をふるうようになった。	ア →福祉総務を紹介し見守りを継続。

分類	相談内容	対応した内容
生活 -4	本人より夫が妻（本人）、子どもに対しても暴言暴力をふるう。	継 →各機関と連携をとり支援センター自体でもミーティング・見守りを継続。
生活 -5	利用者より階下の住人による子どもの足音等過度の苦情	継 →母の思いを受ける事を継続中。
生活 -6	60代女性より隣人より突然嫌がらせが始まりいたたまれなくなり直接相談に来た。	継 →ある程度改善された。
生活 -7	近隣の方の騒音が気になると相談を受け、事務局に報告。	継 その後依頼者に時々様子を伺う。
生活 -8	近所の方より階下から子どもの泣き声・親のしかる大声が聞こえてきて、聞いているだけでつらい	見 →見守りを継続。
生活 -9	近所の方より福祉関係すべての援助を拒んでいる。	見 →見守りを継続。
引きこもり・不登校 -1	保護者、担任より友人とのLINEトラブルが元で小学校から不登校（引きこもり）でだんだん外に出たがらなくなってしまったとの相談。	ア SC（スクールソーシャルワーカー）から医療機関につなげ複数を受診。
引きこもり・不登校 -2	学校（担任？）より引きこもりについて相談があった。→	ア 民生委員を紹介し見守りを継続している。
引きこもり・不登校 -3	担任より受け持っている生徒が欠席をしても保護者と何の連絡もとれないとの相談。	ア →民生委員、児相に連絡し、見守りを継続。
引きこもり・不登校 -4	近所の方より近所のご主人が自宅に引きこもっている。自家用車が全く動いている様子がない。	ア →福祉課職員と訪問したが今現在も見守りを継続。（自家用車は処分）
引きこもり・不登校 -5	保護者及び民生委員より不登校気味の生徒について相談を受けた。	ア →茅ヶ崎保健所を紹介。児童の様子を見ながら必要に応じて担任が保護者と連絡をとり見守りを継続している。
引きこもり・不登校 -6	保護者より不登校について相談を受けたので、児童相談所を紹介した。	継 保護者と連絡をとりながら登校の促し及び見守りを継続している。
引きこもり・不登校 -7	親より子どもの引きこもりについて相談を受け、相談指導教室を紹介した。	継 改善せず。
引きこもり・不登校 -8	親より不登校の相談	継 →学校とも調整し、登校刺激を控えるも生活支援から見直しをし、相談継続。
引きこもり・不登校 -9	保護者より子どもが学習面の不安から引きこもってしまったとの相談。	継 →担任とSC（スクールソーシャルワーカー）が家庭訪問を繰り返し支援中。
引きこもり・不登校 -10	中学校不登校。	継 →児相・中学校などで相談継続中。
引きこもり・不登校 -11	不登校。	見 →見守りを継続。
不明・その他 -1	解決に向かってそれぞれ方向性が見えている。	不
不明・その他 -2	衣服の入れ間違いについて。	不

IV. 役割の認知度

地域で活動されている機関の役割を知っているかどうか、お伺いしました。

分類	知ってる		知らない		計
1 民生委員	122	90.4%	13	9.6%	135
2 自治会	125	92.6%	10	7.4%	135
3 保健師	112	83.0%	23	17.0%	135
4 子育て支援員	105	77.8%	30	22.2%	135
5 社協	109	80.7%	26	19.3%	135
6 福祉課総務担当	80	59.3%	55	40.7%	135
7 学校（支援級）	119	88.1%	16	11.9%	135
8 当事者団体	36	26.7%	99	73.3%	135
9 相談支援事業所	55	40.7%	80	59.3%	135
10 町福祉部	94	69.6%	41	30.4%	135
11 町健康子ども部	70	51.9%	65	48.1%	135
12 児童相談所	124	91.9%	11	8.1%	135
13 精神科	109	80.7%	26	19.3%	135
14 保健所	123	91.1%	12	8.9%	135
15 通所施設	109	80.7%	26	19.3%	135
16 入所施設	107	79.3%	28	20.7%	135
17 ヘルパー	123	91.1%	12	8.9%	135
18 グループホーム	108	80.0%	27	20.0%	135
19 放課後デイ	85	63.0%	50	37.0%	135
20 児童発達支援	80	59.3%	55	40.7%	135



ほとんどの機関の認知度については「知っている」が過半数を超えていましたが、当事者団体、相談支

援事業 所については、知らない方のほうが多かったという結果となりました。

○自由記載

No.	相 談 内 容
1	町の3才半健診の時にアンケートだけではなく、実際に簡単な事をさせてみてもよいのではないかと思います。（昔と変わっていなければ、親へのアンケートで、子どもができないことでもできると回答してしまう親がいる。
2	障がいがあるのかわからない子もいるので様子を見に来てもらえるとありがたい。また、接し方なども教えて欲しい。
3	障がい者といっても多種多様で全体より総論より各論の対策をしないと話は先に進まないと判断します。このアンケートで情報収集することも必要と思いますが、近年（約20年の間）に町が障がい者に対して切り捨てたこと（行政では改善、改革）をもう一度見直して必要なことをピックアップしてはどうでしょうか？好きで障がい者になった人はいないと思いますし、健常者と同じ様な生活を望んでいるはずです。障がい者でも「安全・安心」の住みやすい寒川町ができますようにご協力したいと思います。
4	Ⅱの数を数えるのは難しいです。（相談者・主訴共に重複多数あり）Ⅲは解決は自分にはできないので答えられません。
5	事業内容が会員間の仲介業務なため、お子さんの預かりを通じて預かる側からの親のパーソナリティについてや、お子さんの発達のつまずきについて相談されることが多い。困り感がある場合は預かる会員さんを通じて機関につなぐことも考えられるが、困り感（親子）がない場合は預かる会員さんの負担感を減らす努力をしている。

【2】アンケート結果を受けて

アンケートの集計結果については、昨年平成28（2016）年10月28日の寒川町地域自立支援協議会の席上で報告され、協議会委員で意見交換を行いました。意見交換の中より、さらに丁寧な分析と今後の課題整理が必要との意見が提案され、分析・検討について少人数のワーキンググループを編成することとし、2017年1月～2月にかけて2回のワーキンググループを開催しました。

自立支援協議会・ワーキンググループではアンケート結果から、下記の項目が課題と考え、新たな取り組みが必要と考えています。

①相談に携わる人・機関の認知度や関係性について

民生委員、自治会など地域の役員の方の認知度が高い反面、当事者団体や相談支援事業所などの障がいに関する直接支援を担当する機関の認知度が低く、最前線で相談を受けた方が次の相談につなげる体制が不十分な状況が分かります。必要な支援の内容に応じて、どのような機関や方法があり、活用できるのか、機関や制度の周知と有機的な関係性を創っていく必要性があります。

②相談の内容について

個別の相談内容を確認すると発達障がいに関する相談や困りごとが多くみられます。学齢期の支援者の回答が多いため、児童期の相談が多く、相談に限らず直接の支援体制や発達障がいに関する情報や知識が不足しているため困っていることが多いと考えられます。発達障がいを初め、これまで支援が受けられなかった新たな福祉の利用者についての周知活動や、理解啓発の活動により、当事者と身近な支援者の困りごとの軽減につなげられる可能性があると思われます。

③相談・支援の継続性について

高齢期になったご家族の相談、障がい者自身の高齢化の課題がある一方、児童期の課題も大きいことが分かる結果となりました。法律・制度で細切れにならず、関係機関で連携して一貫した相談支援を求められています。

④相談体制の整備・つながり創りについて

相談を受けて、早急な解決ができない場合また解決ではなく見守りや継続的な支援が必要な事例の対応を、アンケートにご回答くださった機関の方が行ってくださっていることが分かりました。具体的な支援が必要になった時や、解決を図る必要が出てきた時の相談の経路（体制）が見えにくいのではないか。ご回答いただいた方が必要性を感じた時に速やかに次の機関につなげられるよう、体制づくりをする必要があると考えられます。

2017年度以降は、これらの課題について、関係機関の連携のあり方や、相談支援体制のあり方について検討・構築を図っていくことが併せて話し合われている状況です。

今後は、町内で総合的な支援を行っている皆さまと、専門的に関わっている関係機関およびその担当者が、日常的に話しあい、必要な支援が円滑かつ十分に町民の方に提供できるような、柔軟な相談支援体制やつながりが作っていけるよう、話し合っていけたらと考えています。

